

「IoT/BD/AI 時代に向けたデジュール及びフォーラム標準に関する標準化動向調査」調査者の募集

2019年4月11日

一般社団法人情報通信技術委員会（TTC）

1. 募集の背景

総務省では 2019 年度に「デジュール及びフォーラム標準に関する標準化活動の強化に資する調査等」を実施することとし、調査請負者の募集を行いました。一般社団法人情報通信技術委員会（以下、TTC）はこの調査を総務省より受託し、調査の一環として標準化の動向調査を行う者（以下、調査者）の募集を行うものです。

2. 募集内容

(1) 調査者の募集を行う標準化テーマ等

2019 年度の標準化の動向調査を行う調査者を募集します。募集する標準化テーマ、標準化機関・団体は、別紙 1 の技術分野や標準化機関・団体とします。

(2) 対象者

国際標準化活動への参加を通して技術展開を継続的に図る意図を有する方のうち、表に記載する条件を満たす方が動向調査を行う会合等の参加者となる場合を対象とします。

- ・ 提案者は、大学、研究機関、ならびに中小企業を含む企業等に属する個人または研究室等グループとします。
- ・ 国際標準化活動および動向調査を実施する上で支援を必要とする方を対象とさせていただきます。
- ・ 他機関からの助成等の支援対象となっている場合は対象外とします。

調査者区分	活動目的	調査者の想定イメージ
A	標準化の主導権・プレゼンスの維持	国際標準化機関・団体やその下部研究委員会等において議長・副議長等の役職者を務める者、または標準化を主導する役割を担う者
B	継続的な標準化活動維持。効率的な動向調査	国際標準化機関・団体やその下部研究委員会等における国際標準化の経験が深く、豊富な人脈を有する者
C	長期的な国際標準化人材の育成	国際標準化に関心を有する若者

(3) 支援内容

- ・ 調査報告書作成費、および調査に係る費用または費用の一部を支援します。
（調査対象標準化機関・団体にて実施される会合参加などに関わる直接的費用）
- ・ 支給額については、1 件当たり概ね 100～150 万円程度（2019 年度の活動期間内）とお考えください。必要がある場合は、上限を越える支給要望額を提案頂いても結構です。
- ・ 支援する動向調査項目と費用については、選定にあたり確認、精査させていただきます。支援の必要性が低いと判断される場合は、支援額を減額することがあります。
- ・ 渡航費、滞在費等の算出にあたっては総務省旅費規程を参照願います。同規程の基本的な事項については別紙 3 をご覧ください。

（参考）動向調査項目と費用のモデルケース（費用内訳および算出根拠等については提案書に記載していただきます）

調査活動項目および参加者	概算費用および算出根拠	金額
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・ 〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5 日間 ・ 参加者氏名：〇〇 〇〇	・ 渡航費：240,000 円 ・ 滞在費等：720 ユーロ（90,000 円） ・ 参加費等：100 ユーロ（12,500 円）	342,500 円
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・ 〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5 日間	・ 渡航費：240,000 円 ・ 滞在費等：720 ユーロ（90,000 円） ・ 参加費等：100 ユーロ（12,500 円）	342,500 円

・参加者氏名:○○ ○○		
○○フォーラム第○回○○会合 ・○○国○○市、○月○日～○日、5日 間 ・参加者氏名:○○ ○○	・渡航費:240,000円 ・滞在費等:720ユーロ(90,000円) ・参加費等:100ユーロ(12,500円)	342,500円
調査報告書作成費	・○○○○(報告書作成者氏名) 41,600円(准教授相当)×5人日	208,000円
小計		1,235,500円
間接的費用	<input checked="" type="checkbox"/> 必要(大学)(一律合計の10%) <input type="checkbox"/> 不要(大学)、対象外(大学以外)	(一律小計の10%)
合計		1,359,050円

(4) 調査者に実施いただくこと、調査の際の留意点

- ・ 調査者として選定された提案者と動向調査項目、支援内容と支給額の調整を行った上で、動向調査活動に関する業務委託契約を提案者の所属先と締結します。
- ・ 調査者には契約に基づいて調査活動を行い、調査結果をまとめた報告書(20ページ程度)と、発表用資料を作成していただきます。
- ・ 調査にあたっては、可能な限り、標準化会合の参加者等とコミュニケーションをとり、会合参加者等の動向等も調査してください。
- ・ TTCのイノベーション推進委員会で報告いただく他、必要に応じセミナー等で発表していただきます。
- ・ 報告書は、以下の点を盛り込んで作成してください。
 - 調査した標準化機関・団体における標準化動向(可能な範囲で、会合参加者(企業名)や参加者の標準化の目的・主張等を含めてください。)
 - 活動を通して得られた各種知見、活動成果(寄書やユースケースの提案等、調査した標準化機関・団体への提案数(合意/採択の結果含む)及び勧告化数については必ずご記載ください。また、可能な範囲で提案・勧告化した案件名や会合名や概要等についても簡潔にご記載ください。)
 - 今後の国際標準化に向けた見通し、提言等
- ・ TTCが開催を予定している標準化人材育成セミナーにご参加頂くことが可能です。
- ・ イノベーション推進委員会(別紙2参照)で、他の調査者の報告を聞くことができます。
- ・ 調査結果は、総務省への報告作成に活用します。調査結果の報告や報告書等(ソフトウェアを含む)の著作権等は総務省に帰属します。

(5) 調査支援費用のお支払いに関して

- ・ 調査支援費用をお支払いするために、期限内に必要な書類の提出をお願いします。
 - 領収書、搭乗券の半券(搭乗確認ができるもの)や航空券の残券(Eチケットのプリントアウト等)、等の証拠書類、経費調書
 - 証拠書類等については、年度途中で確認をお願いすることがあります。
- ・ 証拠書類等を含む経費調書(TTCの確認を受けたもの)が期日までに提出されない場合は、費用の支払ができない場合がありますので、ご注意ください。
- ・ 昨年度は、締切り間際に証拠書類が不十分な、あるいは支払対象費用以外の費用が含まれる証拠書類が提出される等のケースが散見されましたので、ご注意をお願いいたします。

3. 調査者の選定方法

イノベーション推進委員会の助言に基づき、TTCが選定します。選定に当たっては、次の点を考慮します。

(1) 調査対象テーマ

- ①別紙1に示す標準化動向調査対象の技術分野等との整合性
- ②提案標準化機関・団体を調査する必要性、調査分野の将来的な市場の成長性、標準化人材育成の必要性
- ③我が国または調査者の潜在的な技術的優位性、国際競争力強化への貢献可能性

(2) 調査方法について

- ① 調査対象となる標準化機関・団体への参画の度合い（情報収集/提案予定/将来提案予定/役職者等）
- ② 調査者の適性、調査実施の確実性
- ③ 支援の必要性、見込まれる調査費用の妥当性

注：選定にあたっては、上記の6つの点を総合的に考慮していますが、今年度から、会合の議長やエディタ役を勤められる方、標準化提案を提出予定の方等(2)①の「参画の度合い」に対する重みづけを従来より上げて選定いたします。

4. 応募（提案）方法について

(1) 添付の提案書テンプレートの記載項目に基づき、提案書の作成・提出をお願いします。
提案書はWord形式で、提案内容の詳細や補足するための添付資料はTTCにおいて閲覧可能な形式(PDF、PPT、Word、Excel ファイル等) で提出してください。

(2) 募集期間

2019年4月12日(金)～2019年5月8日(水) 17:00

(3) 提出先

一般社団法人情報通信技術委員会（TTC）「IoT/BD/AI 時代に向けたデジュール及びフォーラム標準に関する標準化活動動向調査」公募担当宛にメールを送付ください。

(4) 問い合わせ先

一般社団法人情報通信技術委員会（TTC）
「IoT/BD/AI 時代に向けたデジュール及びフォーラム標準に関する標準化活動動向調査」公募担当
koubo@ttc.or.jp

5. 公募および調査活動に関するスケジュール

- ・現時点で予定しているスケジュールは以下の通りとなります。

項目	日程（予定）
提案書の募集締切	5月8日（水）17:00
提案書の内容確認	提案書受領後～5月10日（金）
調査者の決定	5月13日（月）
採用通知	5月14日（火）
調査委託契約の調整および締結	5月下旬（目標）
調査活動の契約期間	契約締結日（5月下旬頃を想定）～2020年3月27日（予定）
調査報告書および精算書類提出	2020年2月末（3月に活動がある場合は別途調整）
イノベーション推進委員会への報告	2020年2月下旬または3月上旬
報告会での講演等	別途調整
調査費用の支援（支払い）手続き	2020年3月(※)

(※) 調査費用についての支援（支払い）は、原則年度末に精算することとします。事情により支払い時期にご要望がある場合は、提案書に記載して下さい。

6. お問合せ先

一般社団法人 情報通信技術委員会（TTC）
「IoT/BD/AI 時代に向けたデジュール及びフォーラム標準に関する標準化活動動向調査」公募担当
大友 克彦、金子 麻衣
E-mail:koubo@ttc.or.jp
Tel:03-3432-1551

(別紙 1)

標準化動向調査対象の技術分野および標準化機関・団体

重点領域	技術分野	標準化機関・団体 (上段:デジュール標準化機関、 下段:フォーラム標準化機関・団体)
統合 ICT 基盤領域 (膨大な「モノ」を 確実につなぐ共通基盤 技術の標準化)	①物理ネットワーク層 <input type="checkbox"/> 光ネットワーク <input type="checkbox"/> 無線アクセス	ITU-T SG15 IEEE, 3GPP, NGMN, LoRa, MuteFire Alliance, ZigBee, BBF, MEF, MoCA, FSAN, Home Grid Forum, HPA, WiFi Alliance, Z-wave Alliance, EnOcean Alliance, Bluetooth SIG
	②共通プラットフォーム・マネジメント層 <input type="checkbox"/> 共通プラットフォーム <input type="checkbox"/> ネットワークソフト化 <input type="checkbox"/> セキュリティ・プライバシー <input type="checkbox"/> AI/ML	ITU-T FG-ML5G, FG-DPM, FG-DLT, SG13, SG16, SG17, ETSI ISG-ENI, ISG-ZSM W3C, IETF, IEEE, oneM2M, TMForum, OMG, OASIS, IIC, OCF, OSGi, THREAD, DMTF, TIP, TOG, OpenID, 3GPP, OMG, ONF, OIF, OPNFV, FIDO, Kantara, Open ADR, Ethernet Alliance, OpenFog
サービス/ ビジネス領 域 (共通基盤 技術をベー スに新ビジ ネス・サー ビスを創出 するための 標準化)	①固定系 IoT <input type="checkbox"/> スマートホーム <input type="checkbox"/> スマートシティ	ITU-T FG-DPM, SG20 W3C, IETF, IEEE, JSCA, OASIS, ECHONET, OpenADR, FIWARE, Hypercat, IIC, OGF, Wi-SUN Alliance, TMForum, WiFi Alliance, Z-wave Alliance, EnOcean Alliance, Bluetooth SIG
	②移動系 IoT <input type="checkbox"/> コネクテッド・カー <input type="checkbox"/> スマートファクトリー	ITU-T SG16 W3C, IETF, IEEE, ITS Forum, OPEN Alliance SIG, PCHA, 5GAA, 5G PPP, AECC
	③映像系・コンテンツ系 IoT <input type="checkbox"/> デジタルサイネージ <input type="checkbox"/> スマートテレビ	ITU-T SG16 W3C, AOM, HbbTV

注：標準化活動の高い流動性を考慮し、上記の重点領域、技術分野、標準化機関・団体に含まれていない領域、技術分野、標準化機関・団体であっても、イノベーション推進委員会が重点的に調査する必要があると認めた場合は、調査対象となることがある。

(別紙2)

TTC イノベーション推進委員会委員一覧

氏名	所属
江崎 浩	東京大学大学院情報理工学系研究科 教授
齊藤 忠夫	東京大学 名誉教授 ICT-ISAC 理事長
下條 真司	大阪大学サイバーメディアセンター長/教授
瀬社家 光	TTC 標準化会議 議長
丹 康雄	北陸先端科学技術大学院大学 学長補佐/セキュリティ・ネットワーク 領域長/教授
富田 二三彦	情報通信研究機構 R&D アドバイザー (元理事)
中里 秀則	早稲田大学理工学術院基幹理工学部 教授
中村 修	慶應義塾大学環境情報学部 教授
守倉 正博	京都大学大学院情報学研究科 教授

(別紙 3)

総務省旅費規程の基本的事項について

総務省における委託業務契約関係書類は、Web サイトに掲載されています。「平成 30 年度委託契約関係書類」となります。なお、「[平成 30 年度委託契約関係書類](#)」を参考に応募提案のご検討にご活用ください。旅費に関する規程は、[平成 30 年度 委託契約経理解説](#)の「Ⅲ－1 旅費」(P60～P66)となります。

注：今年度版については、後日総務省の Web サイトに掲載予定です。

提案書に記載にあたっての注意事項

以下の記載項目、記載内容や留意事項に従った提案書を Word にて作成すること。なお、添付資料のファイル形式は PDF、PPT、Word、Excel ファイル等 TTC において閲覧可能な形式でお願いします。提案書は全体で 3 枚ページ程度とし、簡潔な記載をお願いします。関連資料がありましたら添付してください。

1. タイトル

(調査対象テーマ名 (30 字程度))

2. 調査活動の概要

(調査対象テーマ、調査対象標準化機関・団体の動向調査の目的と主旨を簡潔に記載 (200 字程度))

3. 技術分野

(以下の領域に属する標準化テーマから関連する分野をチェック (✓) (複数記載可)。なお、標準化活動の高い流動性を考慮し、上記の重点領域、技術分野、標準化機関・団体に含まれていない領域、技術分野、標準化機関・団体であっても、イノベーション推進委員会が重点的に調査する必要があると認めた場合は、調査対象としますので、□その他をチェックしご提案ください。)

統合 ICT 基盤領域 (膨大な「モノ」を確実につなぐ共通基盤技術の標準化)	<input type="checkbox"/> ①物理ネットワーク層 <input type="checkbox"/> 光ネットワーク <input type="checkbox"/> 無線アクセス <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> ②共通プラットフォーム・マネジメント層 <input type="checkbox"/> 共通プラットフォーム <input type="checkbox"/> ネットワークソフト化 <input type="checkbox"/> セキュリティ・プライバシー <input type="checkbox"/> AI/ML (人工知能/機械学習) <input type="checkbox"/> その他 ()
サービス/ビジネス領域 (共通基盤技術をベースに新ビジネス・サービスを創出するための標準化)	<input type="checkbox"/> ①固定系 IoT <input type="checkbox"/> スマートホーム <input type="checkbox"/> スマートシティ <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> ②移動系 IoT <input type="checkbox"/> コネクテッド・カー <input type="checkbox"/> スマートファクトリー <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> ③映像・コンテンツ系 IoT <input type="checkbox"/> デジタルサイネージ <input type="checkbox"/> スマートテレビ <input type="checkbox"/> その他 ()

4. 調査対象標準化機関・団体

(会合参加等により動向調査を実施する対象となる標準化機関・団体を記載)

5. 調査費用 (支給要望費用) 及び支援の必要性

(調査活動に関して支給要望総額及び支援を必要とする状況を簡潔に記載 (約 100 字程度)。費用内訳は 8 項に記載ください。調査費用についての支援 (支払い) は、原則年度末に精算することといたしますが、事情により支援の支払い時期にご要望がある場合は理由を含め記載して下さい。)

6. 調査対象テーマの詳細、参画度合い、アピールポイント

(選考に当たって考慮する観点 (別紙 1 に示す標準化テーマ等との整合性、提案の標準化機関・団体を調査する必要性、将来的な市場の成長性、標準化人材育成の必要性、我が国または調査者の潜在的な技術的優位性、国際競争力強化への貢献可能性) に沿って調査対象テーマと調査の重要性についてご説明下さい。)

また、調査対象となる標準化機関・団体への参画の度合い (情報収集/提案予定/将来提案予定/役職者等)、参画の度合いや調査の重要性等に関するアピールポイントを記載ください。)

7. 調査活動のスケジュール

(下記のような表形式で、参加会合等具体的な調査活動を記載下さい。)

時期 (予定)	調査活動項目	主な活動予定
2019 年〇月〇日～〇日	〇〇フォーラム第〇回〇〇会合参加	〇〇に関する動向収集 〇〇 (〇〇議長、〇〇社) と意見交換
2019 年〇月〇日～〇日	〇〇フォーラム第〇回〇〇会合参	〇〇に関する動向収集

	加	〇〇（〇〇議長、〇〇社）と意見交換
2019年〇月〇日～〇日	〇〇フォーラム第〇回〇〇会合参加	〇〇に関する動向収集 〇〇（〇〇議長、〇〇社）と意見交換

8. 調査費用（支給要望費用）の詳細

（下記のような表形式で、費用の内訳、算出根拠を記載してください。）

- ・参加会合の場所、期間、会合参加者氏名は必ず記載願います。渡航費、滞在費等の算出にあたっては総務省旅費規程を参照願います。同規程の基本的な事項については別紙3をご覧ください。
- ・調査報告書作成費は、報告書作成に係る工数（人日）に、報告書作成者の以下の役職区分に応じた単価を乗じた金額にてご提案ください。報告書作成者が複数の場合、複数分記入して下さい。

役職区分	想定する役職イメージ	使用する単価
部長相当（教授相当）	部門を統括する役職、またはそれ以上の役職	45,440円/人・日
課長相当（准教授相当）	業務を統括する役職	41,600円/人・日
業務担当者相当（講師相当）	上記以外の役職	30,080円/人・日
学生相当	学生	10,800円/人・日

- ・提案者が大学の場合で間接的費用が発生する場合、それは一律直接的費用の10%とします。提案者が大学以外の場合には調査活動に関わる直接的な費用以外は支給対象とはしません。）

調査活動項目および参加者	概算費用および算出根拠	金額
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5日間 ・参加者氏名：〇〇 〇〇	・渡航費：240,000円 ・滞在費等：720ユーロ（90,000円） ・参加費等：100ユーロ（12,500円）	342,500円
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5日間 ・参加者氏名：〇〇 〇〇	・渡航費：240,000円 ・滞在費等：720ユーロ（90,000円） ・参加費等：100ユーロ（12,500円）	342,500円
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5日間 ・参加者氏名：〇〇 〇〇	・渡航費：240,000円 ・滞在費等：720ユーロ（90,000円） ・参加費等：100ユーロ（12,500円）	342,500円
調査報告書作成費	・〇〇〇〇（報告書作成者氏名） 41,600円（准教授相当）×5人日	208,000円
小計		1,235,500円
間接的費用	<input checked="" type="checkbox"/> 必要（大学）（一律合計の10%） <input type="checkbox"/> 不要（大学）、対象外（大学以外）	（一律小計の10%）
合計		1,359,050円

9. 調査者の詳細、アピールポイント

（下記の表形式で、調査者および調査者区分（2(2)項対象者参照）、調査者の所属・役職、従事する業務、主な業績・団体等参加状況、調査者が本調査に適していることを示すアピールポイント、調査実施後の業務への活用予定等を簡潔に記載下さい。調査者が複数の場合は行を追加してください。）

氏名	調査者区分	所属・役職・従事する業務	主な業績・標準化活動実績
			(アピールポイント・調査実施後の業務への活用予定等)
			(アピールポイント・調査実施後の業務への活用予定等)

10. 連絡先

（提案者（本提案の代表者で提案内容に責任を持ってご対応いただく方）及び事務担当（契約処理、費用確認処理に関してご対応いただく方）の、連絡先（氏名、所属、役職、住所、電話番号、携帯

電話番号、メールアドレス) を記載)

(1) 代表者

氏名	
所属・役職	
住所	
連絡先	・電話番号 ・携帯電話番号 ・メールアドレス

(2) 事務担当

氏名	
所属・役職	
住所	
連絡先	・電話番号 ・携帯電話番号 ・メールアドレス

【添付資料リスト】

(提案書の補足説明、選定に際してアピールしたい参考資料等がある場合、添付下さい)

提案書（テンプレート）

1. タイトル

2. 調査活動の概要

3. 技術分野

統合 ICT 基盤領域 （膨大な「モノ」を確 実につなぐ共通基盤 技術の標準化）	①物理ネットワーク層 <input type="checkbox"/> 光ネットワーク <input type="checkbox"/> 無線アクセス <input type="checkbox"/> その他（ ） ②共通プラットフォーム・マネジメント層 <input type="checkbox"/> 共通プラットフォーム <input type="checkbox"/> ネットワークソフト化 <input type="checkbox"/> セキュリテ イ・プライバシー <input type="checkbox"/> AI/ML（人工知能/機械学習） <input type="checkbox"/> その他 （ ）
サービス/ビジネス領 域 （共通基盤技術をベ ースに新ビジネス・サ ービスを創出するた めの標準化）	①固定系 IoT <input type="checkbox"/> スマートホーム <input type="checkbox"/> スマートシティ <input type="checkbox"/> その他（ ） ②移動系 IoT <input type="checkbox"/> コネクテッド・カー <input type="checkbox"/> スマートファクトリー <input type="checkbox"/> その他（ ） ③映像・コンテンツ系 IoT <input type="checkbox"/> デジタルサイネージ <input type="checkbox"/> スマートテレビ <input type="checkbox"/> その他（ ）

4. 調査対象標準化機関・団体

5. 調査費用（支給要望費用）及び支援の必要性

6. 調査対象テーマの詳細、参画度合い、アピールポイント

(1) 調査対象テーマの詳細

(2) 参画度合い

(3) アピールポイント

7. 調査活動のスケジュール

（下記のような表形式で、参加会合等具体的な調査活動を記載下さい。）

時期（予定）	調査活動項目	主な活動予定

8. 調査費用（支給要望費用）の詳細

調査活動項目および参加者	概算費用および算出根拠	金額
		円
		円
		円
調査報告書作成費		円
小計		円

間接的費用	<input type="checkbox"/> 必要（大学）（一律合計の10%） <input type="checkbox"/> 不要（大学）、対象外（大学以外）	（一律小計の10%）
合計		円

9. 調査者

氏名	調査者区分	所属・役職・従事する業務	主な業績・標準化活動実績
			（アピールポイント・調査実施後の業務への活用予定等）
			（アピールポイント・調査実施後の業務への活用予定等）

10. 連絡先

(1) 代表者

氏名	
所属・役職	
住所	
連絡先	<ul style="list-style-type: none"> ・電話番号 ・携帯電話番号 ・メールアドレス

(2) 事務担当

氏名	
所属・役職	
住所	
連絡先	<ul style="list-style-type: none"> ・電話番号 ・携帯電話番号 ・メールアドレス

【添付資料リスト】